

原子力災害の特徴は

原子力災害は、事故などで放射線や放射性物質が放出されることによって引き起こされる災害です。放射線は目に見えず、音も立てないため、地震や風水害などと違って人が感じ取ることができません。そのため、私たちにどのような影響があるのか、どのように行動をすればよいのかを自分で判断することができません。原子力災害に対処するためには、放射線に関する正しい知識と情報が必要ですので、自身の判断で勝手に行動せずに、市や国、県の指示に従って行動することが大切です。

原子力災害時に皆さんがとるべき行動

情報に注意する

- 防災行政無線や広報車、テレビ・ラジオなどの情報に注意してください。
- うわさや憶測(デマ)などで、行動しないでください。

住宅などの屋内に入る

- 放射線や放射性物質の量が少ない時は、自宅などの屋内に入るだけで放射線を防ぐことができます。
- 放射線の量が多くなると見込まれる場合は、より放射線の遮蔽効果が高いコンクリートでできた建物に退避します。
- 対象となる地域は、事故の状況などに基づき、市から指示を出します。

避難所への避難

- 避難が必要となる地域と避難の方法などは、市から指示を出します。
- 皆さんは、どこへ、どのように避難するのかを、しっかり確認してください。
- 避難所では、放射性物質による汚染検査や健康相談などを行います。

横須賀市市民安全部危機管理課

電話:046-822-8226 / FAX:046-827-3151

e-mail:ps-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

発行 平成24年(2012年)10月

この冊子は、3,000部製作し、1部あたりの印刷経費は、77.4円です。

わたしたちの生活と放射線

～ 原子力防災 ～

横須賀市